



4 インストール完了後 の作業

障害処理のためのセットアップ、管理ユーティリティのインストール方法、システム情報のバックアップ方法、ネットワーク上のPCのセットアップ方法などインストールを完了した後に行う作業について説明しています。これらの作業は運用中にも確認が必要となる場合があります。

障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のようなセットアップをしておいてください。

メモリダンプ(デバッグ情報)の設定

Express5800/ftサーバ内のメモリダンプ(デバッグ情報)を採取するための設定です。

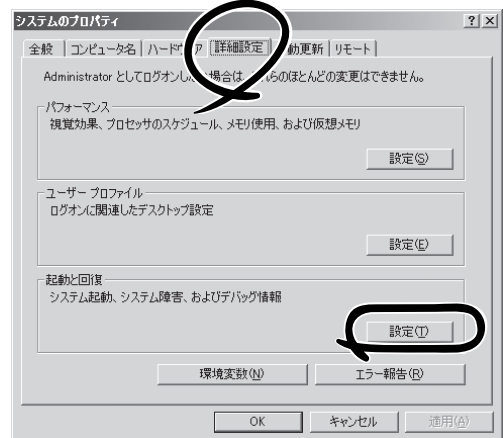


メモリダンプの注意

- メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの設定のみを行ってください。
- ここで示す設定後、障害が発生し、メモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。

次の手順に従って設定します。

1. スタートメニューから[コントロールパネル]を選び、[システム]をクリックする。
[システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
2. [詳細設定]タブをクリックする。
3. [起動と回復]ボックスの[設定]をクリックする。



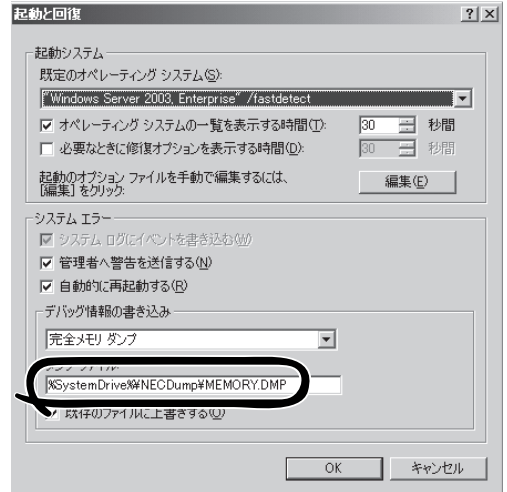
4. テキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力する。

<Dドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>

D:¥MEMORY.DMP

本装置では、インストール時の既定値として以下のように設定されています。既定値への格納を推奨します。

%SystemDrive%¥NECDump¥
MEMORY.DMP

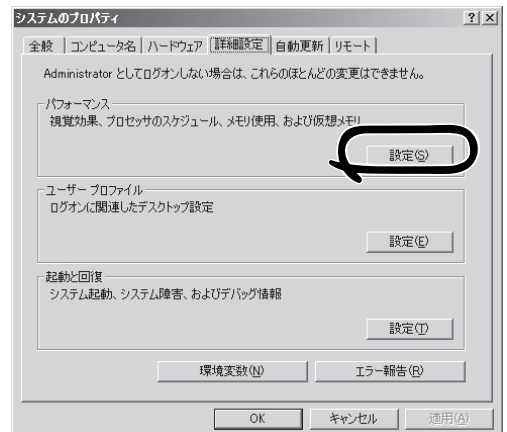


重要

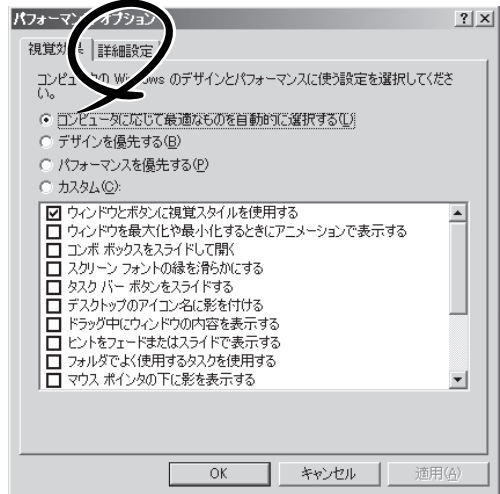
- デバッグ情報の書き込みは[完全メモリダンプ]を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、[完全メモリダンプ]を指定することはできません(メニューに表示されません)。その場合は、[カーネルメモリダンプ]を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+12MB以上(メモリサイズが2GBを超える場合は、2048MB+12MB以上)の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを[カーネルメモリダンプ]に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。

5. [パフォーマンス]ボックスの[設定]をクリックする。

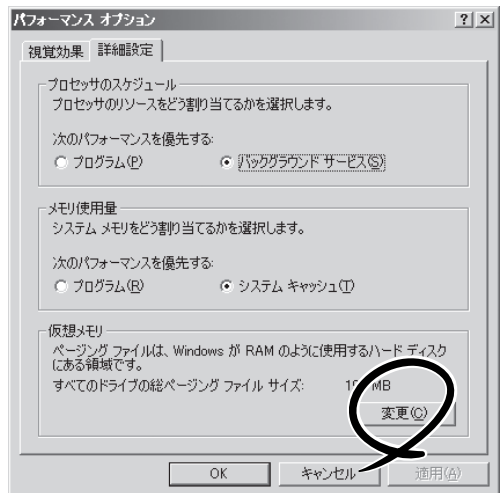
[パフォーマンスオプション]ウィンドウが表示されます。



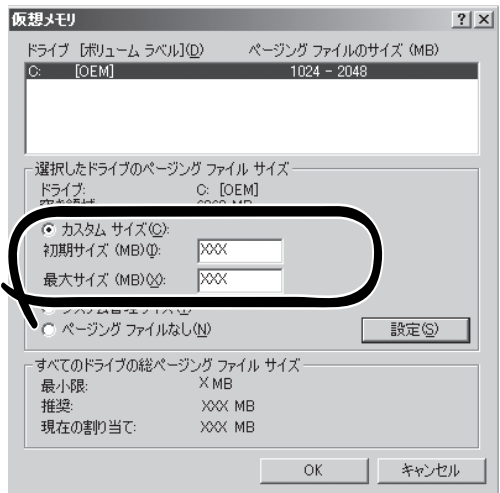
6. [パフォーマンスオプション]ウィンドウの[詳細設定]タブをクリックする。



7. [仮想メモリ]ボックスの[変更]をクリックする。



8. [選択したドライブのページングファイルサイズ]ボックスの[初期サイズ]を[推奨]値以上に変更し、[設定]をクリックする。



重要

- 必ずOSパーティションに「推奨」値以上のサイズで作成してください。ページングファイルの「初期サイズ」を「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報(メモリダンプ)を採取できない場合があります。
- 「推奨」値については、「作成するパーティションサイズについて(3-10ページ)」を参照してください。
- 障害発生時に備えて、事前にDUMPスイッチを押し、正常にダンプが採取できることの確認を行うことをお勧めします。
- メモリを増設した際は、メモリサイズに合わせてページングファイルの再設定を行ってください。

9. [OK]をクリックする。

設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

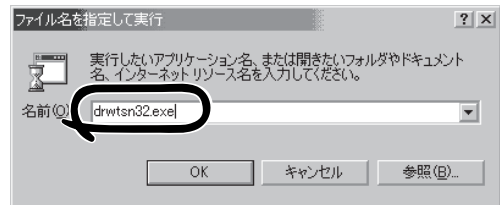
ワトソン博士の設定

Windowsワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバッグです。アプリケーションエラーを検出するとExpress5800/ftサーバを診断し、診断情報(ログ)を記録します。診断情報を採取できるよう次の手順に従って設定してください。

1. スタートメニューの[ファイル名を指定して実行]をクリックする。

2. [名前]ボックスに「drwtsn32.exe」と入力し、[OK]をクリックする。

[Windows ワトソン博士]ダイアログボックスが表示されます。

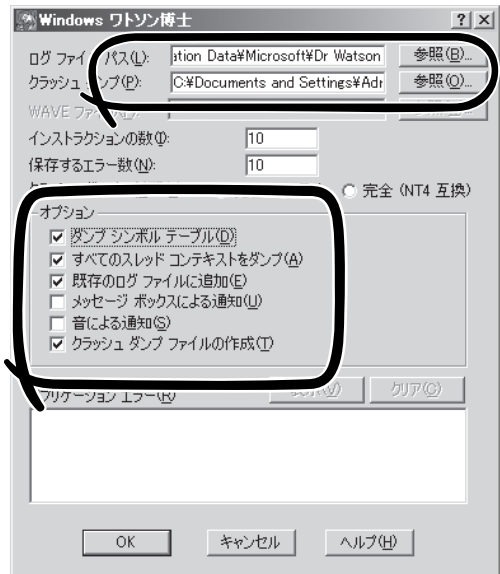


3. [ログファイルパス]ボックスに診断情報の保存先を指定する。

「DRWTSN32.LOG」というファイル名で保存されます。



ネットワークパスは指定できません。
ローカルコンピュータ上のパスを指定してください。



4. [クラッシュダンプ]ボックスにクラッシュダンプファイルの保存先を指定する。



「クラッシュダンプファイル」はWindows Debuggerで読むことができるバイナリファイルです。

5. [オプション]ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。

- ダンプシンボルテーブル
- すべてのスレッドコンテキストをダンプ
- 既存のログファイルに追加
- クラッシュダンプファイルの作成

それぞれの機能の説明についてはオンラインヘルプを参照してください。

6. [OK]をクリックする。

ネットワークモニタのインストール

ネットワークモニタを使用することにより、ネットワーク障害の調査や対処に役立てることができます。ネットワークモニタを使用するためには、インストール後、システムの再起動を行う必要がありますので、障害が発生する前にインストールしておくことをお勧めします。

1. スタートメニューから[コントロールパネル]を選び、[プログラムの追加と削除]をクリックする。
[Windows プログラムの追加と削除]のダイアログボックスが表示されます。
2. [コンポーネントの追加と削除]をクリックする。
[Windows コンポーネント ウィザード]ダイアログボックスが表示されます。
3. コンポーネントの[管理とモニタ ツール]チェックボタンをオンにする。
影つきのチェックボックスはコンポーネントの一部がインストールされていません。影つきのチェックボックスを一度はずしてからチェックし直してください。
4. [次へ]をクリックする。
5. 「Windows Server 2003, Enterprise Edition」のディスクの挿入を求める画面が表示された場合は、画面の指示に従ってディスクを挿入する。
CD-ROM挿入で表示されるメニューは終了させておきます。終了させるにはメニュー画面の[×]印をクリックします。
6. [Windows コンポーネント ウィザード]ダイアログボックスの[完了]をクリックする。
7. [プログラムの追加と削除]ダイアログボックスの[×]印をクリックする。

ネットワークモニタは、[スタート]メニューから[プログラム]→[管理ツール] をポイントし、[ネットワークモニタ]をクリックすることにより、起動することができます。操作の説明については、オンラインヘルプを参照してください。

管理ユーティリティのインストール

添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」には、Express5800/ftサーバ監視用の「ESMPRO/ServerAgent」、およびExpress5800シリーズ管理用の「ESMPRO/ServerManager」などが収録されています。これらの管理ユーティリティをExpress5800/ftサーバ、またはExpress5800/ftサーバを管理するコンピュータ(管理PC)にインストール・セットアップしてください。

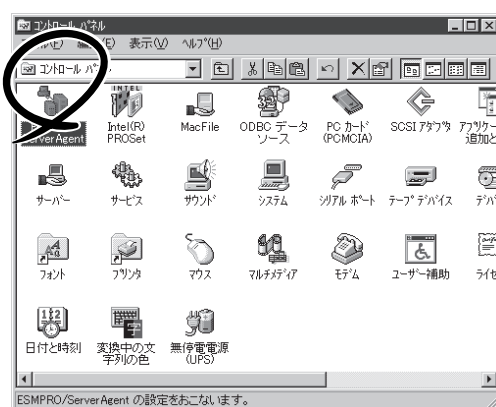
ESMPRO/ServerAgent

ESMPRO/ServerAgentは、「ftサーバセットアップ」で自動的にインストールされます(プリンストールモデルのハードディスクドライブにも出荷時にインストール済みです)。
[スタート]メニューの[プログラム]にインストールしたユーティリティのフォルダがあることを確認してください。ftサーバセットアップの中でインストールしなかった場合は、個別にインストールしてください。

重要 Express5800/ftサーバを連続稼働させるには必ず必要であるためインストールされていることを確認してください。

ESMPRO/ServerAgentの詳細な設定は[コントロールパネル]の[ESMPRO ServerAgent]アイコンをダブルクリックして表示されるプロパティダイアログボックスで変更することができます。

設定項目に関する詳細は、[ヘルプ]をクリックすると表示されるオンラインヘルプを参照してください。



動作環境

ESMPRO/ServerAgentを動作させることができるハードウェア/ソフトウェア環境は次の通りです。

● ハードウェア

- － インストールする装置 Express5800/ftサーバ本体
- － メモリ OSの動作に必要なメモリ+25.0MB以上
- － ハードディスクドライブの空き容量 50.0MB以上
- － モデム
モデムはページャ通報機能を使用する場合にのみ必要です。ATコマンドを解釈するモデムであること(2400bps以上)。ダイヤル回線ではメッセージを送ることができません。プッシュ回線をご利用ください。

● ソフトウェア

Windows Server 2003、Windows 2000

セットアップを始める前に

インストールならびにセットアップの前に必ずお読みください。

ESMPRO/ServerAgentを動作させるためにはTCP/IPとTCP/IP関連コンポーネントのSNMPの設定が必要です。

TCP/IPの設定

TCP/IPの設定についてはスタートメニューから起動するヘルプを参照してください。

SNMPサービスの設定

<SNMPサービスのインストール>

1. [コントロールパネル]の[プログラムの追加と削除]を開く。
2. [Windows コンポーネントの追加と削除]をクリックする。
3. Windows コンポーネントウィザードで[管理とモニタツール]を選択し、[詳細]をクリックする。
4. [簡易ネットワーク管理プロトコル(SNMP)]のチェックボックスをチェックする。
5. [次へ]をクリックする。
ファイルのコピーが始まります。
6. ファイルのコピー終了後、[完了]をクリックする。

<SNMPサービスの設定変更>

1. [コントロールパネル]の[管理ツール]をダブルクリックする。
2. [管理ツール]の[サービス]を起動する。
3. サービス一覧から[SNMP Service]を選択し、[操作]メニューの[プロパティ]を選択する。
「SNMPのプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。
4. [トラップ]プロパティシートの[コミュニティ名]ボックスに「public」と入力し、[追加]をクリックする。

重要

- ESMPRO/ServerManager側の設定で受信するトラップのコミュニティをデフォルトの「*」から変更した場合は、ESMPRO/ServerManager側で新しく設定したコミュニティ名と同じものを入力します。
 - ESMPRO/ServerAgentからのトラップがESMPRO/ServerManagerに正しく受信されるためには、双方のコミュニティ名が一致する必要があります。
5. [トラップ送信先]の[追加]をクリックし、[IPホストまたはIPXアドレス]ボックスに送信先のESMPRO/ServerManagerマシンのIPアドレスを入力後、[追加]をクリックする。

重要

トラップ送信先に指定されている相手ESMPRO/ServerManagerのIPアドレス(またはホスト名)をマネージャ通報(TCP/IP)の設定で指定した場合、重複していることを警告するメッセージを表示します。同一のESMPRO/ServerManagerを指定するとアラートが重複して通報されます。

6. [セキュリティ]プロパティシートを表示し、以下の設定をする。
 - 「受け付けるコミュニティ名」に手順4で入力したコミュニティを追加
 - その権利を「読み取り、作成」(「READ CREATE」)または「読み取り、書き込み」(「READ WRITE」)に設定
 - 「すべてのホストからSNMPパケットを受け付ける」を選択

重要

- 手順4で「public」以外のコミュニティ名を入力した場合は、「受け付けるコミュニティ名」にもその値を追加してください。
- 「受け付けるコミュニティ名」の権利を「READ CREATE」または「READ WRITE」以外の権利に設定すると、ESMPRO/ServerManagerからの監視ができなくなります。

<特定のホストからSNMPパケットのみ受信するように設定する場合>

「これらのホストからSNMPパケットを受け付ける」を選び、パケットを受信するホストのIPアドレス、エージェントをインストールするサーバのIPアドレス、およびループバックアドレス(127.0.0.1)を指定する。

<特定コミュニティからのSNMPパケットのみ受信するように設定する場合>

SNMPパケットを受け付けるコミュニティ名をデフォルトの「public」から任意の名前に変更する。

重要

- コミュニティ名を変更した場合は、[コントロールパネル]からESMPRO/ServerAgentのコミュニティ変更登録を行う必要があります。コミュニティの変更登録には[全般]タブの[SNMPコミュニティ]リストボックスを使います。
- ESMPRO/ServerManagerからのSNMPパケットをESMPRO/ServerAgent側で正しく受信できるようにするためにはESMPRO/ServerManager側の設定の送信コミュニティ名とESMPRO/ServerAgent側のSNMPサービスが受け付けるコミュニティ名を同じにしてください。

7. ネットワークの設定を終了する。

重要

- OSのインストールの際にサービスパックを適用してからSNMPサービスを追加した場合は、再度サービスパックを適用してください。SNMPサービスが正しく動作せず、ESMPRO/ServerAgentが動作しなくなることがあります。
- ESMPRO/ServerAgentの動作にはSNMPサービスが必須です。ESMPRO/ServerAgentをインストールした後にSNMPサービスを削除してしまった場合は、SNMPサービスをインストール後、ESMPRO/ServerAgentを再インストールしてください。
- 他社製ソフトウェアの中には、SNMPサービスを使用しているものがあります。このようなソフトウェアがインストールされている状態で、SNMPサービスとESMPRO/ServerAgentをインストールすると、ESMPRO/ServerAgentのサービスが起動できない問題が発生する場合があります。このような場合は、いったんSNMPサービスを削除して、SNMPサービスを再インストールしてください。その後で、ESMPRO/ServerAgentと上記他社製ソフトウェアを再インストールしてください。

システムのアップデート

ESMPRO/ServerAgentをインストールする場合は、事前にnecipmi.sysがインストールされている必要があります。necipmi.sysをインストールするには、装置に添付されているEXPRESSBUILDERのCD-ROMを使用してシステムのアップデートを行ってください(5-8ページ参照)。

necipmi.sysがインストールされていない場合は、以下のメッセージを表示してESMPRO/ServerAgentのセットアップを中止します。

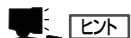
「ESMPRO/ServerAgentの実行に必要な以下のファイルが存在しません。
セットアップを中止します。
necipmi.sys」

インストール

ESMPRO/ServerAgentはExpress5800/ftサーバのインストール、または再インストールの時に同時に自動でインストールされます。

マニュアルでのインストールするときは、EXPRESSBUILDERのマスターコントロールメニューから行います。

1. ユーザー名「administrator」でログインする。
2. CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットする。



本体に接続されたCD-ROMドライブまたはLAN Managerで接続されたネットワーク上のCD-ROMドライブでもかまいません(以下、これらをまとめて「CD-ROMドライブ」と呼ぶ)。



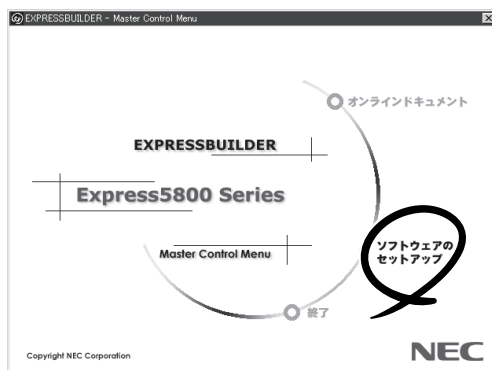
ネットワーク上のCD-ROMドライブから実行する場合は、ネットワークドライブの割り当てを行った後、そのドライブの「MC¥1ST.EXE」を実行してください。エクスプローラのネットワークコンピュータからは起動しないでください。

Autorun機能によりEXPRESSBUILDERのマスターコントロールメニューが自動的に表示されます。

3. [ソフトウェアのセットアップ]から[ESMPRO]をクリックする。

ESMPROセットアップが起動し、メインメニューが表示されます。

4. ESMPROセットアップのメインメニューで[ESMPRO/ServerAgent]をクリックする。



OSの種類に合わせて、選択できるメニューが変わります。(インストールできないものは、グレー表示になります)



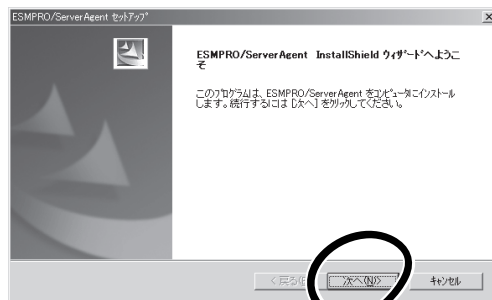
🔑 重要

- ダブルクリックでメニューを選択すると同じダイアログボックスを2つ表示することがあります。[終了]をクリックしてどちらか一方のダイアログボックスを閉じてください。
- セットアップの実行中に[キャンセル]をクリックすると、インストールを中止するかどうかをたずねるメッセージが表示されます。メッセージボックスで[中止]をクリックするとインストールを中止できます(メインメニューは表示されたままです)。ただし、途中でセットアップされたファイルの削除は行われません。

5. [次へ]をクリックする。

💡 ヒント

ESMPRO/ServerAgentがすでにインストールされている場合は「ESMPRO ServerAgentが既にインストールされています。」というダイアログボックスが表示されます。[更新]をクリックして[次へ]をクリックすると以前のエージェントを削除し、新たにインストールし直します。



6. セットアッププログラムが自動機種判断を行うので、そのまま何も操作しないで待つ。

🔑 重要

セットアッププログラムが機種を判別できなかった場合には、ESMPRO/ServerAgentのセットアップを中止します。

7. ESMPRO/ServerAgentのインストール先パス名を入力し、[次へ]をクリックする。

デフォルトではルートパーティションの¥ESMディレクトリの下にESMPRO/ServerAgentのモジュールがインストールされます。特に問題がなければ、このまま[次へ]をクリックしてください。

インストール先を変更したい場合は、[参照]をクリックして希望するインストール先のディレクトリをドライブ名を含むフルパスで指定してから[次へ]をクリックしてください。

8. インストール終了のウィンドウが表示されたら、[OK]をクリックする。

インストールが終了します。インストールしたESMPRO/ServerAgentの機能はOSの再起動後に有効になります。

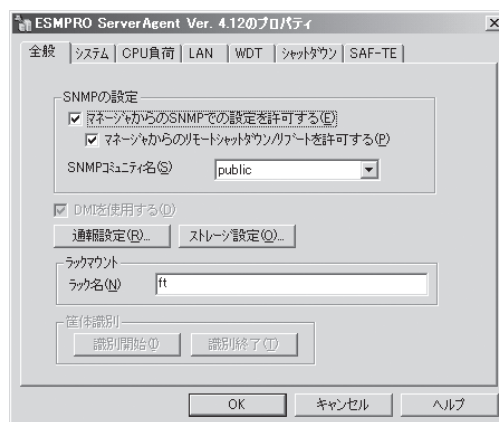
🔑 重要

- ESMPRO/ServerAgentのインストール後、SNMPサービスは停止状態になっています。OSの再起動後、SNMPサービスは開始されます。
- ESMPROのインストールが終了してもESMPROセットアップのメインメニューは消えません。他のダイアログボックスに隠れることがあるので注意してください。ESMPROセットアップを終了するときはメインメニューの[終了]をクリックしてください。

ESMPRO/ServerAgentのセットアップ

インストールされたESMPRO/ServerAgentの各種設定は出荷時の設定のままです。[スタート]から[設定]－[コントロールパネル]をクリックして、[コントロールパネル]を開いてください。

[コントロールパネル]の[ESMPRO ServerAgent]アイコンをダブルクリックするとプロパティダイアログボックスが表示されます。ダイアログボックス内の各シートにある設定を使用する環境に合わせてください。セットアップをする上で注意していただきたい点や、知っておいていただきたいことがらについて、別冊のユーザーズガイドの5章の「補足説明」で説明しています。セットアップをする際や、正しく動作していないのでは?と思われたときに参照してください。



アンインストール

ESMPRO/ServerAgentおよびBMCコンフィグレーション、BMC FW Update Serviceのアンインストールの方法について説明します。

ESMPRO/ServerAgentのアンインストール

ESMPRO/ServerAgentのアンインストールの方法について説明します。



ESMPRO/ServerAgentのアンインストールについて

- システムが完全に起動してからアンインストールを始めてください。
- システム起動直後にESMPRO/ServerAgentのアンインストールを行うと、[サービスの削除中...]のダイアログボックスを表示した状態でセットアッププログラムが止まってしまうことがあります。いったん「アプリケーションの切り換え」などで強制終了してください。その後システムが完全に起動してからアンインストールしてください。
- エクスプレス通報サービスをご利用の場合、ESMPRO/ServerAgentのアンインストールの前にエクスプレス通報サービスを削除してください。エクスプレス通報サービスの削除方法については「エクスプレス通報サービスインストールガイド」を参照してください。

● EXPRESSBUILDERを使用してアンインストールする方法

1. 「インストール」を参照してESMPROセットアップのメインメニューを表示させる。
2. [ESMPRO/ServerAgent]をクリックする。
[ESMPRO/ServerAgentのセットアップへようこそ]というダイアログボックスが表示されません。
3. [次へ]をクリックする。
「ESMPRO ServerAgentが既にインストールされています。」というメッセージが表示されます。
4. [削除する]を選択して[次へ]をクリックする。
以上でアンインストールされます。

● EXPRESSBUILDERを使用せずにアンインストールする方法

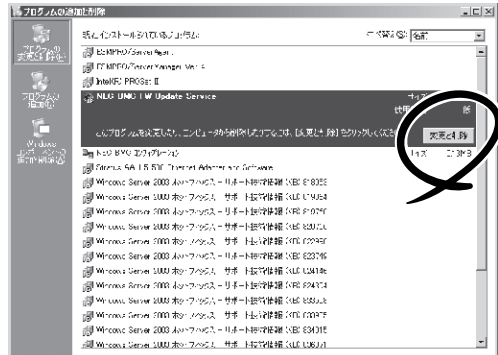
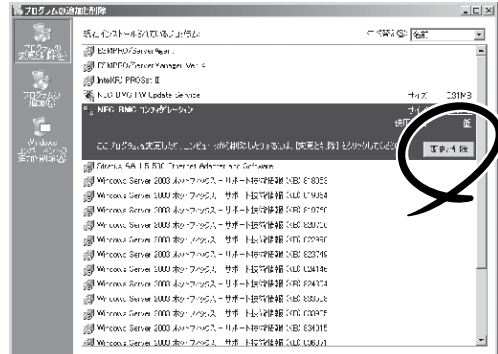
1. [コントロールパネル]から[プログラムの追加と削除]を起動する。
2. [ESMPRO/ServerAgent]を選択して[追加と削除]をクリックする。
以上でアンインストールされます。

BMCコンフィグレーション・BMC FW Update Serviceのアンインストール

ESMPRO/ServerAgent のインストールを行うとBMC コンフィグレーション、NEC BMC FW Update Serviceのアンインストーラが登録されます。

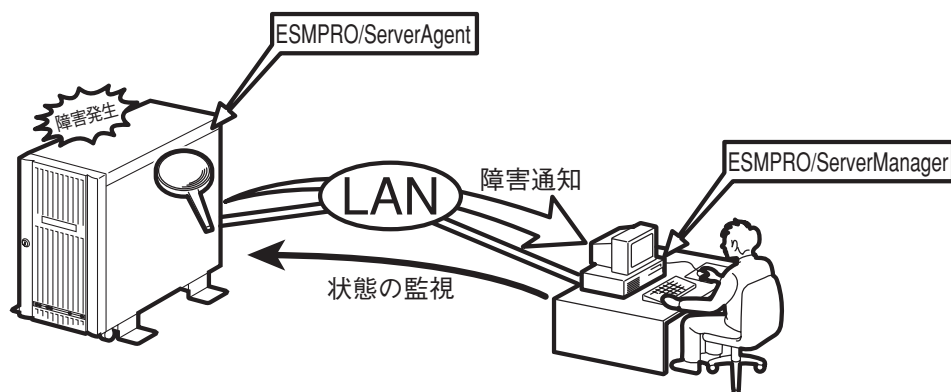
これらのアンインストーラを使用してBMCコンフィグレーション、NEC BMC FW Update Serviceを削除することができます。

1. [コントロールパネル]から[プログラムの追加と削除]を起動する。
2. [NEC BMCコンフィグレーション]、
[NEC BMC FW Update Service]を選択して[変更/削除]をクリックする。



ESMPRO/ServerManager

Express5800/ftサーバにインストールされたESMPRO/ServerAgentと連携して、Express5800/ftサーバの状態の監視や障害通知の受信をします。



また、ESMPRO/ServerManagerはExpress5800/ftサーバ内の故障したモジュールを交換する際に本体からの論理的なモジュールの切り離しや交換後の論理的な組み込みを操作することができます。

ESMPRO/ServerManagerのインストール方法や運用上の注意事項についてはユーザーズガイドの5章を参照してください。

MWA

Management Workstation Application (MWA) は、Express5800/ftサーバ内のRomPilotやBaseboard Management Controller (BMC)などのコントローラと通信し、管理PC上でExpress5800/ftサーバのBIOS設定を確認したり、管理PCにセットしたフロッピーディスクからExpress5800/ftサーバを起動したりすることができる管理用アプリケーションです。

管理PCに「MWA Manager」をインストールし、LAN、またはWAN、シリアルポートを介してExpress5800/ftサーバと通信することができます。

MWAについては、別冊のユーザーズガイドの5章を参照してください。

動作環境

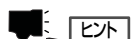
MWAを動作させることができるハードウェア/ソフトウェア環境は次のとおりです。

- 管理PC（インストールするコンピュータ）
MWA はWindows が動作しているコンピュータ上で動作します。詳細については、「MWA ファーストステップガイド」を参照してください。
- MWA でリモート保守する装置
Express5800シリーズの添付ユーザズガイドにMWAの記載がある装置。対象装置には、RomPilot、BMCのいずれかが搭載されています。本装置にはBMC (IPMI 1.0)とRomPilotが搭載されています。

MWA Managerのインストール

MWAを使って本装置を管理するには、管理PC側にMWA Managerをインストールしてください。MWA Managerは、CD-ROM「EXPRESSBUILDER」を使って管理PCにインストールします。

1. Windowsを起動させる。



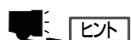
MWAが動作可能なOSについては、「MWAファーストステップガイド」を確認してください。

CD-ROMドライブ：¥mwa¥doc¥jp¥mwa_fsg.pdf

2. CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットする。

Autorun機能により、EXPRESSBUILDERのマスターコントロールメニューが自動的に表示されます。

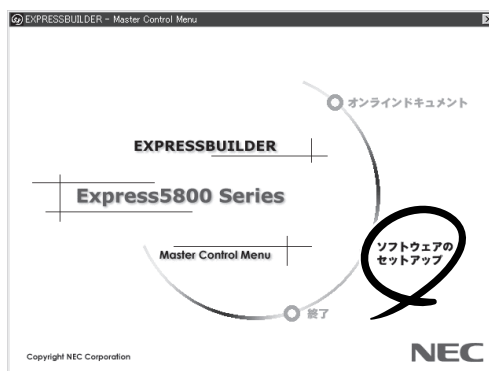
3. [ソフトウェアのセットアップ] – [MWA]の順にクリックする。



右図の画面上で右クリックしてもポップアップメニューが表示されます。

4. [MWA Manager]をクリックする。

MWAのインストーラが起動します。インストーラの指示に従ってインストールしてください。

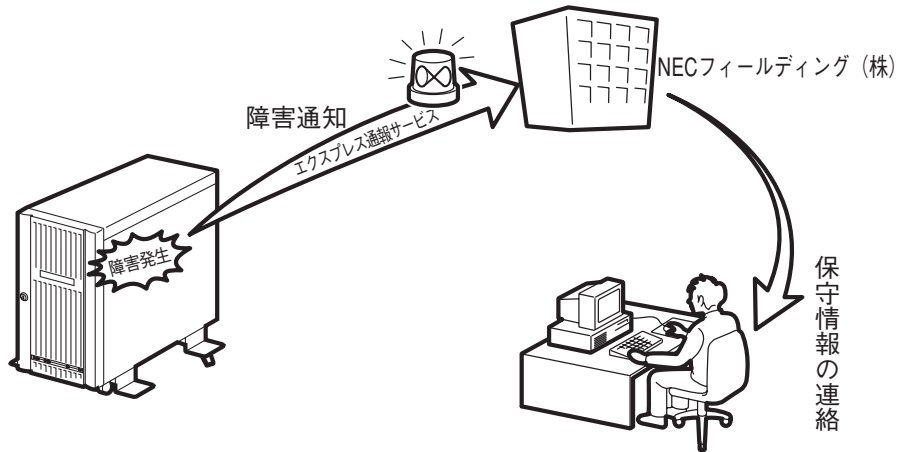


エクスプレス通報サービス

エクスプレス通報サービスは、お使いになるExpress5800/ftサーバを保守サービス会社が随時その状態を監視し、何らかの異常を検出したときにお客様に通報するサービスです。

ご利用には別途、保守契約が必要です。

ヒント



エクスプレス通報サービスの契約を結んでいる場合は、別冊のユーザーズガイドの5章を参照して、サービスを受けるためのセットアップをしてください。

また、エクスプレス通報サービスのインストールに関しては、インストレーションガイドを参照してください。

システム情報のバックアップ

システムのセットアップが終了した後、オフライン保守ユーティリティを使って、システム情報をバックアップすることをお勧めします。

システム情報のバックアップがないと、修理後にお客様の装置固有の情報や設定を復旧(リストア)できなくなります。次の手順に従ってバックアップをとってください。

1. 3.5インチフロッピーディスクを用意する。
2. EXPRESSBUILDER CD-ROMをExpress5800/ftサーバのCD-ROMドライブにセットして、再起動する。
EXPRESSBUILDERから起動して「EXPRESSBUILDER トップメニュー」が表示されます。
3. [ツール]—[オフライン保守ユーティリティ]を選ぶ。
4. [システム情報の管理]から[退避]を選択する。
以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進めてください。

ネットワーク上のPCのセットアップ

Express5800/ftサーバとTCP/IPプロトコルを利用して通信をするWindows Server 2003、またはWindows XP/2000/NT 4.0、Windows 95/98/Meで動作するコンピュータをお持ちの場合には、すべてのコンピュータにおいて、以下の設定をしてください。

- ① 「EXPRESSBUILDER」CD-ROMまたはft制御ソフトウェアUPDATE CD-ROM内の¥STRATUS¥LANG¥JP¥PROG¥FTREG.EXEを任意のディレクトリにコピーする。



ft制御ソフトウェアUPDATE CD-ROMは、ft制御ソフトウェアを最新にアップデートするものであり、装置に添付されていない場合もあります(装置出荷時点で「EXPRESSBUILDER」CD-ROMに含まれているソフトウェアが最新の場合には、添付されません)。

- ② コマンドプロンプトを起動し、上記ファイルをコピーしたディレクトリを入力して次のコマンドを入力する。

FTREG.EXE

この設定は、Express5800/ftサーバ起動直後およびCPUモジュールの再組み込み(二重化処理)時にExpress5800/ftサーバとLANプロトコルで接続されているコンピュータとの間のコネクションが無通信状態となり、タイムアウトを起こす可能性を回避するのものです。Express5800/ftサーバ上でWindows Server 2003が動作するシステムにおいて、起動直後、およびCPUモジュールの再組み込み時に発生する無通信時間は、搭載のメモリサイズおよび動作中アプリケーションのメモリの利用状況により大きく変動します。

無通信時間の最小時間は、搭載のメモリサイズにかかわらず瞬時であり、無通信の対象にはなりません。最大無通信時間は搭載のメモリサイズ別に以下ようになります。

<u>メモリサイズ</u>	<u>無通信時間</u>
256MB	約 3.1秒
512MB	約 6.2秒
1GB	約 12.3秒
2GB	約 24.7秒
3GB	約 36.3秒
6GB	約 47.0秒

この設定プログラムでは、Windowsの次のレジストリを設定します。

- **Windows XP/Windows NT/Windows 2000の場合**

レジストリキー:

HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\Tcpip\Parameters

値: TcpMaxConnectRetransmissions

タイプ: REG_DWORD

設定値: 5

値: TcpMaxDataRetransmissions

タイプ: REG_DWORD

設定値: 8

値: TcpMaxConnectREsponseRetransmissions

タイプ: REG_DWORD

設定値: 5

- **Windows 95/98/Meの場合**

レジストリキー:

HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\VxD\MSTCP

値: MaxConnectRetries

タイプ: String

設定値: 5

値: MaxDataRetries

タイプ: String

設定値: 8

ft制御ソフトウェアのバージョン確認方法

フォールト・トレラントを実現している各種ソフトウェアの集合であるft制御ソフトウェアのバージョンを確認する方法について説明します。なお、Express5800/ftサーバに装置を増設する場合など、動作中のft制御ソフトウェアのバージョンを確認する必要がある場合に実施していただくことになります。

バージョン確認には、専用のツールが用意されています。下記の手順に従ってバージョンを確認してください。

1. 管理者権限のあるユーザーでログインする。

2. 添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットする。

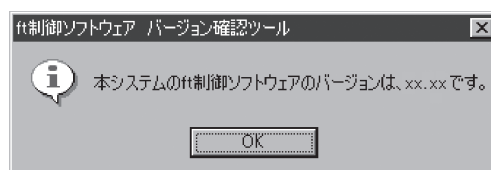
「Express5800/ftサーバシリーズft制御ソフトウェア UPDATE」CD-ROMがある場合は、そのCD-ROMをセットしてください。

3. 格納されてるバージョン確認ツールを実行する。

ツール名: ftVerChk.exe

格納場所: <CD-ROMドライブ>:\¥FTSVTOOL\¥VERSION

動作中のft制御ソフトウェアのバージョンが表示されます。



以上でバージョンの確認は完了です。

サービスパックの適用について

Express5800/ftサーバは、お客様の判断でサービスパックを適用しないでください。



サービスパックを適用したい場合は、PP・サポートサービスをご契約の上、PP・サポートサービスのWebページで適用状況を確認し、Express5800/ftサーバにサービスパックを適用してください。